

Gベース（防護柵用基礎ブロック）

国土交通省 NETIS（新技術情報提供システム）掲載期間終了

「Gベース」は、品質・工期・安全性・施工性・経済性・メンテナンスなどあらゆる面で現場打ち工法に比べて多くの長所を持った画期的なたわみ性防護柵用基礎ブロックです。

「Gベース」は、車両の衝突荷重を考慮し、金沢大学の指導の下、安定・構造試験を行い、その安全性が確認され、たわみ性防護柵 C 種～SC 種に対応しています。

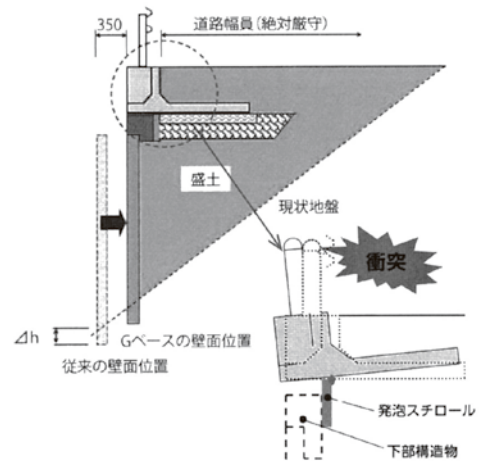
平成16年度制定『車両用防護柵標準仕様・同解説』平成20年度制定『防護柵の設置基準・同解説』に準拠しています。

防護柵の種別	衝突荷重	作用高
B・C種	30kN	0.600m
A種	55kN	0.600m
SC種	60kN	0.600m

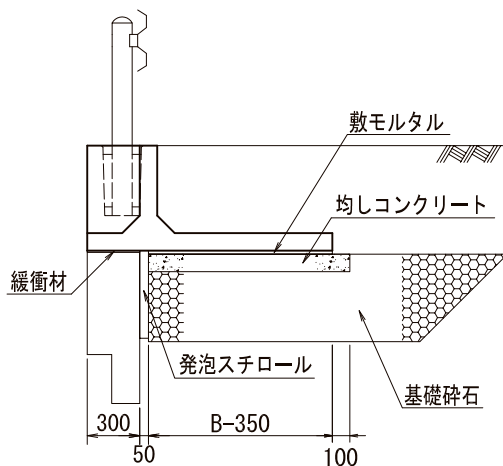


特 長

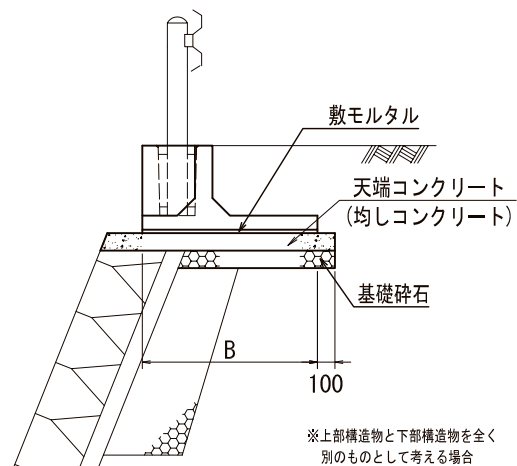
1. Gベースは、下部構造の上部に緩衝材を敷設しその上に直接設置が可能のため、従来工法に比べ、余幅の用地を必要としません。また、衝突事故が発生した場合であっても、中空に設置されたGベースは下部構造物に衝突荷重を与えません。
2. 側溝を抱きかかえた計画に対応できます。
3. ボルト連結で簡単に施工できます。
4. 標準製品でR 15mまでの曲線施工に対応できます。
5. 縦断勾配B、C種15%、SC種12%まで対応可能です。



標準施工断面図(直上設置タイプ)

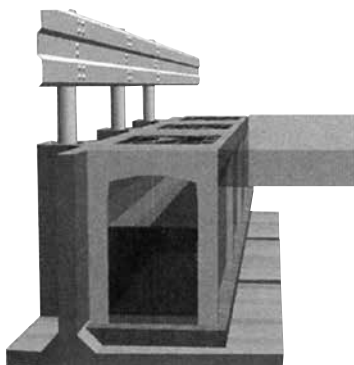


標準施工断面図(山口県対応)



※上部構造物と下部構造物を全く別のものとして考える場合

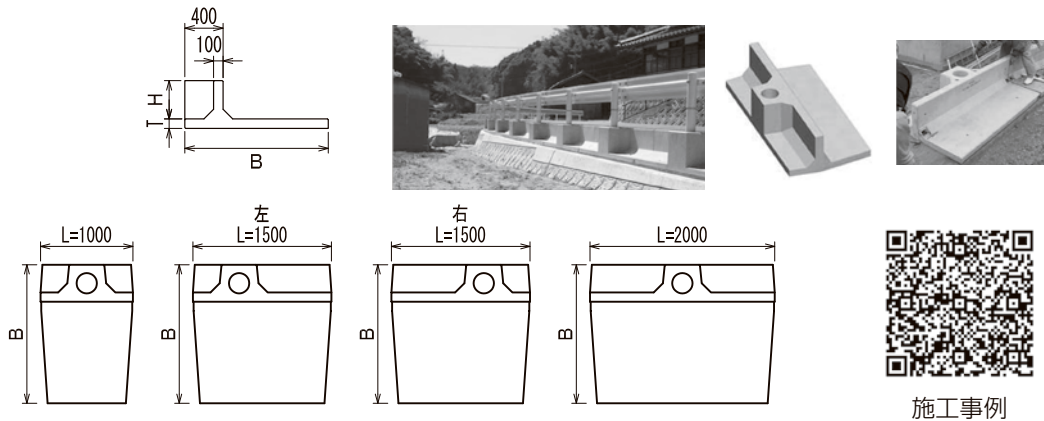
この図は標準図ですので、現場に応じて適宜設計して下さい。



	必要内高※	H400	H500	H600	H700
自由勾配側溝	495mm以上	—	○	○	○
道路用側溝	560mm以上	—	—	○	○
円形側溝	380mm以上	○	○	○	○
現場打基礎	700mm	—	—	—	○

※必要内高は各側溝の最低規格高に基礎(50mmと仮定)を考慮したものである。

Gベース（防護柵用基礎ブロック）



地域対応型（車道用）タイプL

タイプ	H (mm)	種別	B (mm)	T (mm)	L = 1,000		L = 1,500		L = 2,000	
					参考質量 (kg)	定価 (円)	参考質量 (kg)	定価 (円)	参考質量 (kg)	定価 (円)
地域対応型 (車道用) タイプL	400	B, C種 L=10~20m用	1,000	80	397		556		715	
		B, C種 L=8m用	1,200	80	432		611		790	

※短尺製品は定価の3割増（受注生産品）※L = 1,500は右・左あり。

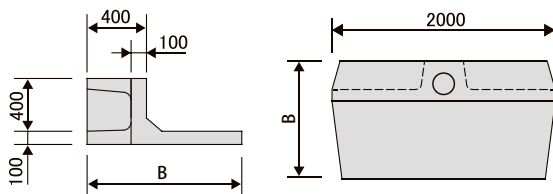
防護柵基準タイプ 標準型（車道用）

タイプ	H (mm)	種別	B (mm)	T (mm)	L = 1,500		L = 2,000	
					参考質量 (kg)	定価 (円)	参考質量 (kg)	定価 (円)
擁壁直上に 設置する場合	400	B, C種	1,500	100	770		1,015	
		A種	1,800	100	888		1,170	
		S C種	1,900	100	—	—	1,685	
	500	B, C種	1,500	100	838		1,095	
		A種	1,800	100	966		1,260	
		S C種	1,900	100	—	—	1,875	
	600	B, C種	1,500	100	906		1,175	
		A種	1,800	100	1,034		1,340	
		S C種	1,900	100	—	—	2,070	
	700	B, C種	1,500	100	988		1,270	
		A種	1,800	100	1,112		1,430	

※短尺製品は定価の3割増（受注生産品）※L = 1,500は右・左あり。※施工延長L = 10mの規格です。

地域対応型（車道用）タイプT

天板を設けて、ガードレール下の隙間をなくし、歩行者の安全に配慮し、また視線にも配慮した製品。



タイプ	H (mm)	種別	B (mm)	参考質量 (kg)	定価 (円)
地域対応型(車道用) タイプT	400	B, C種	1,000	875	別途見積



LBカバー（EPS軽量盛土工法壁面材）

国土交通省 NETIS（新技術情報提供システム）掲載期間終了

従来の EPS 軽量盛土工法では、H型鋼の支柱間に壁面材を並べ保護層を設けていました。「LB カバー」は、従来の工法に比べて工事費や工期を削減するとともに、作業の安全性を確保したプレキャスト超軽量盛土用自立壁面材です。

特長

1. 優れた施工性

壁面は、最大で6m²/枚と広く、さらには製品単体でも自立するため、従来工法に比べ施工スピードが大幅に向上します。また、軽量盛土上部に設ける防護柵基礎を『Gベース』と組み合わせて頂くことでさらに施工性の向上が図れます。

2. 確かな安全性

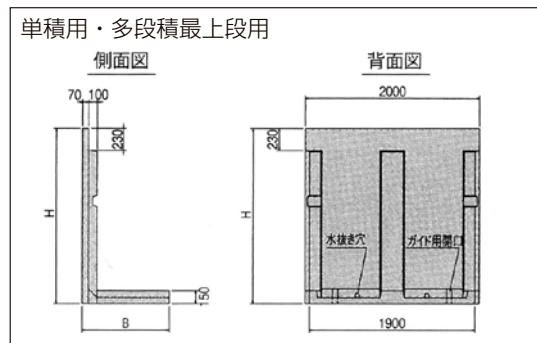
施工時には、谷側に足場工の設置も不要で EPS の設置に合わせた壁面部材の設置が可能のため安全に安心して作業していただけます。さらには、ブロックは自立し、製品相互は、専用プレートにて接合を行うため、特殊な作業を必要としません。

3. 高い経済性

従来のH鋼建て込み式に比べて、足場工等の仮設工も不要となり、20%の工事費削減が実現できます。



区分	規格	寸法 (mm)		参考質量 (kg)
		H	B	
単積用 下段用	H-1000	980	750	695
	H-1500	1,480		940
	H-2000	1,980		1,185
	H-2500	2,480		1,440
	H-3000	2,980		1,685
上段用 中段用	H-1000	980	1,000	800
	H-1500	1,480	1,250	1,145
	H-2000	1,980	1,250	1,395
	H-2500	2,480	1,500	1,760
	H-3000	2,980	1,750	2,115



他工法との比較

工法	LBカバー工法	H型鋼支柱+壁面材		
施工断面図				
構 造 性	・プレキャスト製自立壁	◎	・垂鉛メッキH型鋼+プレキャスト版	◎
耐 久 性	・鉄筋コンクリート製であるため良い。	◎	・押出成型セメント版のため、凍結融解対策が必要。	×
安 定 性	・中間床版と一体化する。 ・中間床版上の水は速やかに外部へ排出。	◎	・中間床版とH型鋼の連結は特殊な加工。 (中間床版施工時にアンカー等が必要) ・中間床版上の水は壁面材内面を流れ落ちる。	△
維 持 管 理 面	・コンクリート製のため補修が容易。	◎	・押出成型セメント版の場合は不可能。	×
経 済 性 (工 事 費)	80%	◎	100%	○
施 工 性 (壁面材施工歩掛り)	60m ² /日 製品は標準で6m ² /枚で自立する。	◎	40m ² /日 製品は1m ² /枚で、吊りながらの固定が必要。	○
安 定 性	・製品は自立する。 ・基礎コンクリート上に製品を設置するのみ。	◎	・壁面材は吊りながらの金具固定が可能。 ・基礎上に壁高のH型鋼の建て込みが必要。 ・壁面材設置時は高所作業車または足場工が必要。	△
総 合 評 価	◎		△	